



2026年5月14日

各位

会社名 テモナ株式会社
代表者名 代表取締役社長 本多 渉
(コード番号：3985 東証スタンダード)
問合せ先 執行役員 CFO 波多野 完治
(TEL. 03-6635-6452)

2026年9月期第2四半期（中間期）業績予想と実績値との差異に関するお知らせ

2026年1月13日に公表した2026年9月期第2四半期（中間期）（2025年10月1日～2026年3月31日）の連結業績予想値と、本日公表の決算短信における実績値との間に差異が生じたので、お知らせいたします。

記

1. 2026年9月期第2四半期（中間期）連結業績予想数値と実績値の差異（2025年10月1日～2026年3月31日）

| | 売上高 | 営業利益 | 経常利益 | 親会社株主に 帰属する中間 純利益 | 1株当たり 中間純利益 |
|-------------------------------|------|------|------|-------------------------|----------------|
| | 百万円 | 百万円 | 百万円 | 百万円 | 円 銭 |
| 前回発表予想（A） | 909 | △25 | △29 | △7 | △0.73 |
| 今回発表実績（B） | 905 | 3 | 0 | △32 | △3.08 |
| 増減額（B-A） | △3 | 28 | 29 | △25 | |
| 増減率（％） | △0.4 | — | — | — | |
| （参考）前年同期実績 （2025年9月期第2四半期） | 936 | 91 | 90 | 59 | 5.56 |

2. 第2四半期（中間期）実績値差異の理由

売上高については、EC支援事業においてたまごレポートの不正アクセスによる減収が当初想定よりも大きかったことや、エンジニアリング事業においてもシステム開発の受託サービスが減少していることが減収要因となりました。一方で、フィンテック事業は契約件数が堅調に推移したことで増収要因となり、結果として第2四半期（中間期）の売上高は前回発表予想比0.4%減の905百万円となりました。

利益面については、セキュリティ面の強化を優先とし、システム開発にかかる外注費をコントロールしたことで、当初予想よりもコスト削減が進みました。結果として営業利益は3百万円（前回発表は25百万円の営業損失）、経常利益は0百万円（前回発表は29百万円の経常損失）となりました。また、不正アクセスに関する保険料収受の時期ずれもあり、親会社株主に帰属する中間純損失は32百万円（前回発表予想は7百万円の親会社株主に帰属する中間純損失）となりました。

通期連結業績予想につきましては、EC支援事業において不正アクセスによる減収からの回復に時間を要しているものの、引き続きフィンテック事業が堅調に推移することを見込んでいることから、現時点では2026年1月13日に公表した業績予想数値に変更はありません。今後、業績予想の修正が必要と判断される場合には、速やかに開示いたします。

※本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績などは様々な要因により大きく異なる可能性があります。

以上